

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
84	川崎市立土橋小学校	吉野 晶子

学校教育目標	今年度の重点目標
・つながる心を大切にする子 ・ちからをあわせて進む子 ・はじける笑顔で学ぶ子 を育てる。	・つながる心を大切にする姿を育む ・ちからをあわせて進む子を育む ・はじける笑顔で学ぶ子を育む

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 つながる心を大切にする姿	・互いがつながる機会として子供も教職員もあいさつの大切さを理解し、相手を意識し、心に届くあいさつを進んで行えるようにします。	学校長をはじめとした教職員が毎朝校門の前であいさつ運動に取り組んでいる。学校評価アンケートにおいても、児童、保護者ともにあいさつをしている人が高い水準で維持できていることが読み取れた。	校内であいさつをすることが当たり前前の雰囲気となってきている。地域に関心をもつ児童が増えてきているので、今後は地域の人にあいさつできることを継続していきたい。
2 ・思いやりをもって友達に接する姿 ・つなぐ、つなげるという意識で、いいなあと感じたことを伝え合う姿	・教職員と子供、保護者、地域とのコミュニケーションを大切にし、互いの思いを共有、理解しながらつながりを大切にしていきます。	コロナ禍を経て、地域や友達と徐々につながる場を構築した1年間であった。地域のイベントも行われるようになり、子供たちも地域に目が向かうようになった。	地域の方々が様々な場面でボランティアとしてかかわってくれている。今後より一層地域の方々とのつながりを深め、地域の一員としての自覚を持てるようにする。
3 意識で、いいなあと感じたことを伝え合う姿 (人権尊重教育 特別支援教育)	・一人一人の個性を尊重し、多様性を認め、自分も他者も大切にできるような子供たちを育てます。	校内研究を通して、他者理解が高まるとともに、人の考えを通じて学びを深める良さを感じられるようになってきている。	次年度は、学校生活全体を通して自分も他者も大切にできる子供の姿を探っていききたい。
4	・子供たちが自ら楽しい活動を創意工夫し、互いの良さを認め合いながら、学年の枠を越えたつながりをもてるようにしていきます。	今年度から「1年生を迎える会」や「6年生を送る会」を全校で行い、異学年交流を行った。前年度はリモートで行ったが、今年度はみんなで集まり、直接顔をあわせることで、よりつながりが深まった。	次年度は、交流の場や方法を工夫しながら、さらにつながりを深めていききたい。
5 ちからを合わせて進む姿 ・双方向の思いやりをもった信じ合う姿	・対話の仕方を工夫し、一人一人の意見や思いを尊重した協働的に学び合える学習活動に取り組みます。	教職員で協力して校内研究を進めたり、教材研究をしたりするなど、日ごろから指導力向上に努め、分かる授業、できるようになる授業を目指している。	「対話」によって他者理解が生まれることが分かった。一人一人の意見や思いを尊重した協働的に学び合える学習活動とはどんなものか、引き続き研究を深めていきたい。
6 ・信じ合う仲間とともに、学習や生活あらゆる場面で力を合わせて問題をのりこえる姿 (主体的・対話的で深い学び 共生・協働)	・日々の当番活動や係活動、行事を充実させ、仲間と協力しながら創り出すプロセスと自ら課題を解決していく体験を大切にしていきます。	運動会などの行事、児童会活動などを通して様々な活躍の場をつくることで、達成感を感じている姿があった。	日々の当番活動や係活動、行事を充実させ、仲間と協力しながら創り出すプロセスと自ら課題を解決していく体験を通して、達成感を感じさせたい。
7	・異学年交流などを通して、上級生(特に5・6年生)から学ぶ場を大切に、互いに心を通わせながら活動できるようにしていきます。	委員会活動や運動会、児童集会などを通して高学年ならではの活躍する場面が増えてきた。全校で集まる機会も増え、成果が目に見えてわかるようになってきている。	コロナ禍を経て、リモートなどGIGA端末を使った活動にも慣れてきている。対面で活動する良さもあるので、リモート、集合型のそれぞれのよさを取り入れながら多くの活動の場を作っていきたい。
8	・教職員の協働体制を構築し、よりよい教育活動の推進をめざして、積極的にコミュニケーションを図り、情報共有と共通理解に努めます。	「当事者意識」「迅速な対応」「情報共有」の3つのことを常に意識し、誠意ある対応を心がけた。	学校評価アンケートでも結果が出ている通り、教職員のチームワークは高いレベルで維持できている。さらによりよい対応ができるよう、今後も職員一同で研鑽を重ねていきたい。
10 はじける笑顔で学ぶ姿 ・安心して学ぶ姿、学ぶ姿を歓迎され、受け入れられ、共感してもらえる姿	・共感的で安心安全な学年・学級づくりに努め、子供たちが自分の考えや思いを自由に発言し、SOSが出しやすい関係づくりに取り組みます。	土橋スタンダードや「みんなのやくそく」などが定着した。人権意識を高める授業を行うことで、教員も子供たちも人権意識が高まってきている。	土橋スタンダードを子供たちの実態に応じて変化させながら、今後も継続して、教職員・子供の人権意識を高め、思いやりや助け合いが広がる「安心」できる学校づくりを進めたい。
11 ・やってみようという意欲を持った姿、どんなことでも試せる教室・認められる喜び、やり遂げた喜びを味わう姿	・子供一人一人のニーズに応じた手立てや支援方法を考え、意欲的に「やってみよう」「できた」「わかった」「もっとやってみよう」と思える授業づくりに取り組み、知的好奇心を揺さぶるような教材開発や授業展開に取り組む。	校内研究では「主体的に学び 豊かにかかわり 自分を高める子」の姿を求めて実践を積み重ねた。「他者理解」をサブテーマとした授業を公開することを通して、学校全体で授業力の向上に努めた。	「やってみよう」と思えるように見通しを持たせること、全員が「できた」「わかった」と感じるようにできる個別の支援方法、「もっとやってみよう」と思えるような好奇心を揺さぶる授業の仕掛けを今後も探っていきたい。
12 (基礎・基本の学力に裏付けされた、自己肯定感)	・日々の教育活動を通して、子供も教職員も達成感を感じ、自己肯定感を高められるような笑顔あふれる学校づくりをめざします。	行事等はもちろん、日々の教育活動においても、子供一人一人のがんばりを認め、励ます言葉かけに努め、それが子供たちにも広げられるよう取り組んだ。	授業中や係活動、実行委員、学年集会など、日常の様々な場面で活躍できる場を多く設定するようにする。今後も子供の達成感が感じられる場面を増やしていきたい。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
土橋小学校運営協議会は、地教法及び川崎市条例改正に則り、コミュニティ・スクールとしてさらなる地域学校協働活動を推進するために、「学校運営協議会＝協議の場、地域学校協働本部(つちーボランティアひろば)＝実働の場」として、役割を棲み分けた体制となっている。学校運営協議会としては、①学校・地域教育を巡る課題等の協議、②子供たちが安心安全に暮らせる環境づくり、③学校教育目標「つちはしアクション」実現に向けた活動評価、に注力して取り組んだ。 コロナ禍に伴い中止となっていた、「読み聞かせ」「昔遊び」など、地域の方々とのかわる機会を多くつくることのできた。今年度は、「WITHコロナ」で得た経験を踏まえ、これからの時代に相応しいコミュニティスクールづくり・活動進化に、引き続き取り組むことができた。	学校評価アンケートでは、子供アンケートや保護者アンケートの多くの項目において、高い数値の維持、または、肯定的な回答が上昇している。子供アンケートの「学校で先生や友達から大切にされていると思う」「困った時に、友達から優しくされたり、優しくしたり、助けてもらった」、言葉をかけあったりしている」「委員会やクラブ、実行委員会、係活動、当番活動などで、協力し合っている」「地域の人によく挨拶をしていますか」の上昇率が顕著だった。また、保護者アンケートでも「教職員のアクション・学校生活」「挨拶」「委員会・係活動」「地域の人との関わり」についての肯定的な回答が昨年度より5ポイント以上アップする結果が得られた。この結果は、つちはしアクションの目標達成に向かっていていると考察する。しかしこれで満足することなく今年度成果のあった活動をさらに活性化し、体験的な活動をできる範囲で広げて、つちはしアクションのさらなる実現に向けて邁進していきたいと考えている。